

病害虫発生予察警報第1号

佐賀県

作物名：タマネギ（早生・中晩生品種）
病害虫名：べと病

1) 注意報の内容

発生地域：県内全域
発生量：平年より多い

2) 警報発令の根拠

- (1) 平成28年3月31日～4月4日に県内各地で実施した調査（合計42圃場）における発生圃場率は88.1%であり、ほとんどの圃場で発生がみられる。また、発生株率は46.7%であり、圃場間で差があるものの、多発生した前年の同時期（31.3%）よりも高い。（表1参照）
- (2) 栽培様式別では、マルチ栽培圃場（11圃場）の発生株率は71.1%と高く、発生が進み多発生となった圃場も認められる。一方、露地栽培圃場（31圃場）の発生程度は大半が少発生ではあるものの、発生株率は38.1%であり、平年及び前年の4月下旬（発生株率：11.1%、21.0%）に比べ高い。（表1参照、写真1、2参照）。
- (3) 発生株には分生孢子の形成が認められ、今後も発生が拡大する恐れがある。

表1 県内各地におけるタマネギべと病の発生状況（平成28年3月31～4月4日、42圃場を調査）

圃場場所	栽培様式	発生株率	発生程度	圃場場所	栽培様式	発生株率	発生程度	圃場場所	栽培様式	発生株率	発生程度
		%									
白石町	マルチ	100	多	白石町	露地	10	少	佐賀市	露地	39	少
"	マルチ	100	多	"	露地	64	中	"	露地	24	少
"	マルチ	38	少	"	マルチ	1	少	"	露地	28	少
"	露地	100	多	"	露地	70	少	"	露地	31	少
"	マルチ	27	少	"	露地	83	少	"	露地	0	—
"	マルチ	90	少	"	露地	4	少	"	露地	42	少
"	マルチ	100	多	"	露地	0	—	"	露地	15	少
"	露地	100	多	"	露地	0	—	"	マルチ	26	少
"	露地	90	少	"	露地	1	少	"	露地	0	—
"	露地	43	少	鹿島市	マルチ	100	中	"	露地	29	少
"	露地	58	少	"	マルチ	100	中	"	露地	31	少
"	露地	70	少	"	露地	22	少	"	露地	100	多
"	露地	24	少	"	露地	4	少	神埼市	マルチ	100	中
"	露地	3	少	"	露地	95	少	"	露地	0	—

・全体の発生圃場率：88.1%（うちマルチ栽培圃場：100%、露地栽培圃場：83.9%）

・全体の発生株率：46.7%（うちマルチ栽培圃場：71.1%、露地栽培圃場：38.1%）

参考1) 前年同時期の全体の発生株率は31.3%、なお、4月上旬の平年値データはない。

参考2) 露地圃場を対象とした4月下旬の平年及び前年の発病株率は11.1%及び21.0%。

注) 発生程度 少：株の病斑面積率が5%未満、中：病斑面積率が5～25%、多：病斑面積率が26～50%。



写真1 ベと病により黄化した葉
(3月31日、露地栽培圃場)



写真2 ベと病による葉の折れ
(4月4日、露地栽培圃場)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) ベと病菌の伝染は、5月上旬まで降雨日翌日等に断続的に起こると考えられるため、今後の発生を抑えるには薬剤防除を継続して実施する必要がある。
- (2) マルチ栽培の早生タマネギでは、発生拡大および他圃場への本病の伝染を抑えるため、栽培後期まで薬剤防除を継続する。
- (3) 露地栽培等の中晩生タマネギでは、今後、新たに展開する葉での発生を抑えるため、葉の展開に合わせて薬剤散布を徹底する。なお、本病菌が感染した後での薬剤防除では十分な効果が得られないため、散布間隔が長くなるよう計画的な防除を行う。
(防除薬剤については、佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびき P277~278 参照 http://www.pref.saga.lg.jp/web/shigoto/_1075/_32933/ns-nougyou/_47429.html)
- (4) 薬剤防除においては、同一系統の薬剤を連用せず(薬剤感受性の低下防止)、農薬使用基準(収穫前日数等)を遵守する。

本情報に関するお問い合わせ先
佐賀県農業技術防除センター
TEL : 0952-45-8153